

『建築職 総まとめ講座 建築材料・施工』(KU12288) 訂正表

2017年4月5日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容		掲載日
		誤	正	
P. 6	17 行目	⑩ 湿潤の骨材を用いたほうが、強度は大きくなる。	⑩ 乾燥の骨材を用いたほうが、強度は大きくなる。	2017/4/5
P. 19	例題 2 肢 5 解説	5 正 そのとおり。乾湿繰返しを受けるため寿命は短くなる。束とは	5 正 そのとおり。乾湿繰返しを受けるため寿命は短くなる。束とは、 <u>1 階床組材で、大引を支える鉛直部材のことである。</u>	2016/3/4
P. 29	2 行目	各工事とその関連性を丸印と矢印で表した工程表 (図 2.1)。	各工事とその関連性を丸印と矢印で表した工程表 (図 2.2)。	2016/3/4
P. 34	下から 4 行目	① 気温が-5℃以下のときは、溶接を行ってはいけない。	① 気温が-5℃以下のときは、溶接を行ってはいけない。	2016/3/4
P. 58	[No. 35] 肢 1	1 アスファルト防水の <u>絶縁工法</u> とは、防水層を保護コンクリートに大部分密着させない工法である。	1 アスファルト防水の <u>密着工法</u> とは、防水層を保護コンクリートに大部分密着させない工法である。	2016/3/4
P. 68	[No. 32] 正解及び肢 A の解説	[No. 32] <u>正解 3</u> A × 高力ボルトと溶接の併用継手の場合、溶接が先である。 : : : よって、 <u>正解は肢 3 である。</u>	[No. 32] <u>正解 なし</u> A ○ 妥当である。高力ボルトと溶接の併用継手の場合、原則として高力ボルトの締め付けを行ってから、溶接を行う。溶接を先に行うと、部材が熱で変形して十分な締め付けができないことがある。また、溶接により高力ボルトが高温になるとゆるみなどが発生するため、高力ボルトの温度に注意して施工する。JASS6 参照。 : よって、本問は妥当なものが A, B, C の 3 つとなるため、 <u>正解はなし</u> となってしまいます。誠に申し訳ございません。	2016/3/4

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/kaitai>)に掲載された日付です。